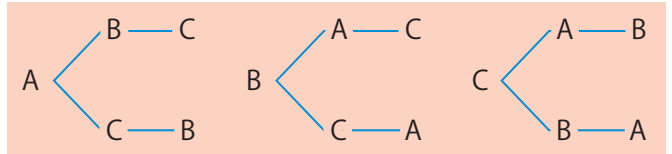


[] 内に語句を記入し、確認しましょう。

● 場合の数

(ア) 3人が1列に並ぶときの並び方は、

右のように [樹形図] をかいて



数えると全部で **[6]** 通りあることがわかる。

(イ) 5冊の本の中から2冊の本を選ぶときの選び方は、5冊の本をA、B、C、D、Eとすると

AとB、AとC、AとD、AとE、BとC、BとD、BとE、CとD、CとE、DとEの [1 0] 通り

ある。(この場合、「AとB」を選ぶのと、「BとA」を選ぶのは同じことだから、

重複して数えないように注意する)

pの範囲は、 $0 \leq p \leq 1$

● 確 率

ことから A が起こる確率 p は $p = \frac{\text{A が起こる場合の数}}{\text{すべてが起こる場合の数}}$ という [分数] で表される。